

やまがた美しい森林づくり推進大会が盛大に開催

山形森林管理署 最上支署

平成26年1月30日山形市において、やまがた美しい森林づくり推進大会実行委員会主催の「やまがた美しい森林づくり推進大会 平成26年新春鼎談～木材需要の動向と林業・木材産業の未来～」が開催されました。実行委員会の外、山形県森林協会、山形県林政推進町村会長懇談会、山形県みどり推進機構、山形県林業・木材産業再生協議会も主催者となっており、山形県内の林業木材産業界全体の運営で例年開催しているものです。

今回は、鹿児島大学農学部教授の遠藤日雄先生による基調講演「岐路に立つ日本の森林・林業・木材産業」で2015年ショック（消費増税による反動やABCD材の流れ）・川下の川上掌握・バイオマス発電などの多岐にわたる話題提供の後、遠藤先生、(株)トーセンの東泉社長、温海町森林組合の佐藤組合長の3名による鼎談が行われました。佐藤組合長からは①普通製材からラミナ製材へ（トーセングループとの繋がり）、②集約化施業による事業確保、③各種指導事業の取組など、トーセン社長からは①木材安定供給のための独自体制「母船式木流システム」、②ヨーロッパを参考にした木質資源フル活用として廃校を利用した栃木『那珂川モデル』の実践、③鶴岡モデルも含めたバイオマスタウンの夢など、が話されました。最上町で実践しているバイオマスタウン構想や最上地域にある大型製材工場の廃校利用などと共通する内容もあり、今後の業務において大変参考になったところです。



多くの関係者が参集



遠藤先生の基調講演

山形県は、平成25年11月に吉村知事が「森林（もり）ノミクス」を宣言し、森林・里山の資源活用で産業振興や雇用の確保などを図ることとしており、資源供給側の国有林としても、林業木材産業界の動きも加速していくことが予想されますので、木質資源フル活用の考え方に立ち、地域の動きや利活用状況を把握しながら対応する考えです。